

電線・ケーブル事業

産業用・電力用ケーブル、機器用電線・配線部品、巻線に分類されるさまざまな電線・ケーブルを取り扱っており、当社の収益基盤となっています。

[主要製品]

■産業用・電力用ケーブル

C Vケーブル、OF ケーブル、耐火・耐熱ケーブル、キャプタイヤケーブル、トロリ線 他

■機器用電線・配線部品

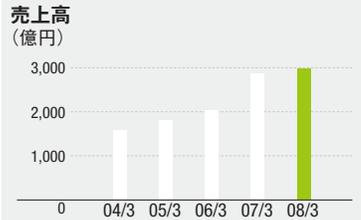
極細同軸ケーブル、フィルムアンテナ、医療機器用プローブケーブル、配線合理化製品 (FFC、MFJ) 他

■巻線

高占積率モータ対応エナメル線、インバータサージ対応エナメル線、自己融着エナメル線 他



売上高構成比^{*3}
(%)



情報通信ネットワーク事業

今後の成長が期待される情報ネットワークやワイヤレスシステム、当期に需要が大幅に拡大した光海底ケーブルなどを中心に展開しています。

[主要製品]

■情報ネットワーク

イーサネット長距離伝送装置、イーサネットTMスイッチ、光トランシーバ、ガラス導波路型光コンポーネント 他

■ワイヤレスシステム

携帯電話基地局用アンテナ、高周波同軸ケーブル、地上波デジタル放送用アンテナシステム 他

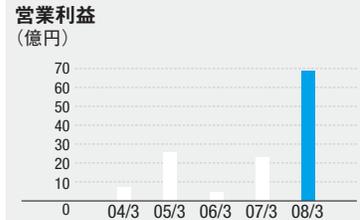
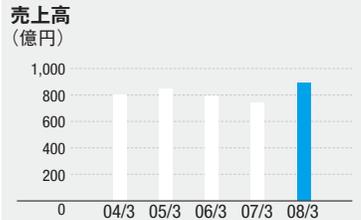
■光・通信ケーブル

光ファイバケーブル、メタル通信ケーブル 他

■光海底ケーブル



売上高構成比^{*3}
(%)



高機能材料事業

半導体材料、自動車用部品、伸銅品など幅広い製品を取り扱っており、積極的に設備投資やM&Aを行っています。

[主要製品]

■化合物半導体

ガリウムヒ素基板・エピタキシャルウェハ、窒化ガリウム基板 他

■半導体パッケージ材料

TAB、リードフレーム 他

■自動車用部品

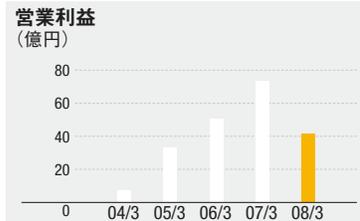
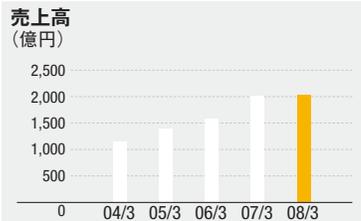
ブレーキホース、ABS センサ、ハイブリッド自動車用電源ハーネス、挟み込み防止センサ 他

■伸銅品

各種高性能電熱管、半導体用銅条、異形条、圧延銅箔 他



売上高構成比^{*3}
(%)



その他事業

物流などの事業で構成されています。当セグメントの売上高は前期比2%減の173億86百万円(内、外部顧客に対する売上高:34億48百万円)、営業利益は前期比9%増の6億53百万円となりました。

*1 イーサネットは、富士ゼロックス(株)の登録商標です。

*2 Aprelia は、当社の登録商標です。

*3 P14-17の円グラフは、セグメント間の内部売上高、または振替高を消去した後の数値に基づき表示しています。

*4 数値は単位未満を四捨五入しています。

**需要が安定して
推移したことに加え、
銅価上昇の影響も
加わり、売上高は
前期を上回りました。**



難燃性ポリフレックス電線「MLFC」
* MLFCは、日立電線の登録商標です。

事業の概要

当社グループは、創業以来、電線メーカーとして蓄積してきた技術力・ノウハウを活かして、電力施設から一般建設用・産業用にいたるまで、さまざまな電線・ケーブルを供給しています。さらに、極細同軸ケーブルや高性能巻線など、エレクトロニクス機器や自動車電装品などの小型・高性能化、省エネルギーに貢献する高機能製品の開発にも力を注いでいます。

なお、当セグメントは「産業用・電力用ケーブル」「機器用電線・配線部

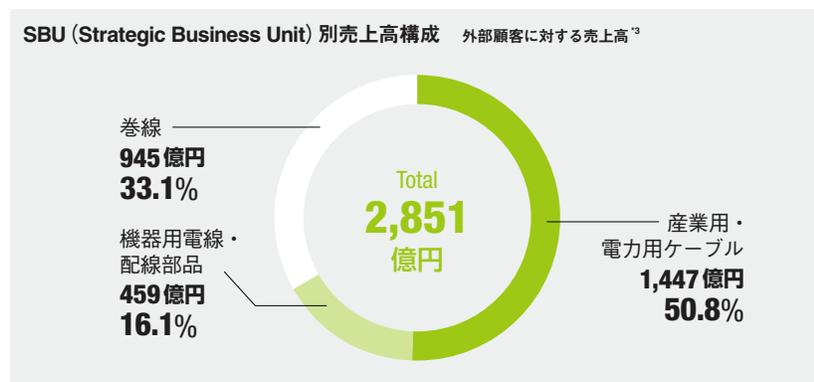
品」「巻線」の3つのSBU (Strategic Business Unit) から構成されています。

2008年3月期の業績

産業用・電力用ケーブルでは、民間設備投資向けを中心に需要が安定して推移し、さらに銅価上昇の影響もあり、前期を上回りました。また、巻線も、銅価上昇の影響に加え、自動車電装部品向けや重電向けが堅調に推移した結果、前期を上回りました。

この結果、売上高は前期比4%増の2,977億6百万円(内、外部顧客に対す

る売上高：2,850億51百万円)となりました。また、営業利益は前期比11%減の113億46百万円となりました。



巻線

**光海底ケーブルおよび
ワイヤレスシステムが
大きく伸び、情報ネット
ワークも堅調。
前期を大幅に上回る
増収増益を達成
しました。**



イーサネットスイッチ「Apresia シリーズ」

事業の概要

当社グループは、通信・放送用ケーブルの開発を通じて、早くから世界トップレベルのオプトエレクトロニクス技術や高周波・無線技術を培ってきました。これらの豊富な技術・ノウハウを活用して、国際通信用の光海底ケーブル、通信キャリア向けのネットワーク機器、地上波デジタル放送や携帯電話網の無線基地局用アンテナシステムなど、21世紀の情報化社会の根幹を支えるさまざまな製品や技術、ソリューションを提供しています。

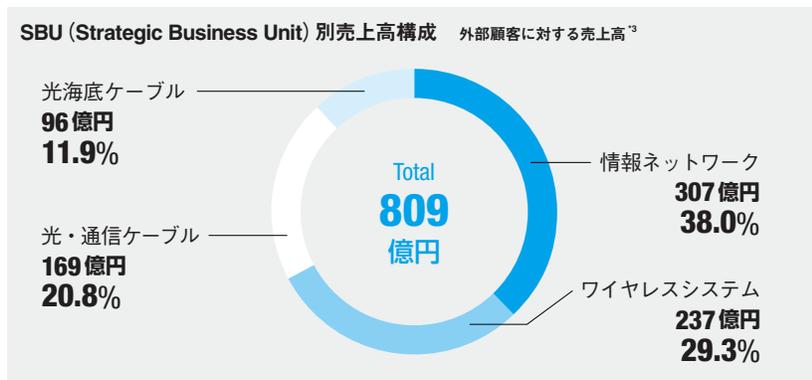
なお、当セグメントは「情報ネットワーク」「ワイヤレスシステム」「光・通信ケーブル」「光海底ケーブル」の4つのSBU (Strategic Business Unit) から構成されています。

2008年3月期の業績

情報ネットワークは、通信事業者向けを中心に堅調に推移しました。ワイヤレスシステムは、携帯電話事業者の旺盛な設備投資によって携帯電話基地局向けが好調であったことなどから、前期から大きく伸ばしました。さらに光

海底ケーブルは、世界的な回線需要の急増に伴って、複数の大型案件向け出荷が続き、前期を大幅に上回りました。

この結果、売上高は前期比20%増の888億93百万円(内、外部顧客に対する売上高：809億34百万円)、営業利益は前期比204%増の69億90百万円となりました。



光海底ケーブル

**売上高はほぼ
前期並みを確保。
一方、固定費の増加や
価格競争の激化に
より、営業利益は
減少しました。**



事業の概要

当社グループは、電線・ケーブル製造で培った高分子配合技術、エレクトロニクス・半導体材料技術など、素材から製造加工技術まで幅広い要素技術を有しています。これら多彩な技術を組み合わせ、半導体パッケージ材料や化合物半導体、各種伸銅品、自動車用部品など、産業界のニーズにきめ細かく応える多様な高機能材料を開発・供給しています。

なお、当セグメントは「化合物半導体」「TAB」「リードフレーム」「自動車用部品」「銅管」「銅条」「電気用伸銅品他」の7つのSBU (Strategic Business Unit) から構成されています。

2008年3月期の業績

化合物半導体は、光デバイス向けが好調に推移したことや、高周波デバイス向けの需要が回復したことにより、前期を上回りました。伸銅品は、銅管の需要が改正建築基準法の影響などによって減少したほか、ディスクリット(単機能)半導体向け銅条も低調でしたが、銅価が高値で推移したことに伴い販売価格が押し上げられたため、全体としては前期並みになりました。

TABは、大型液晶パネル向けのCOFが、需要の伸び悩みおよび価格競争の激化により、年度後半に大幅に落ち込んだことから、前期を下回りました。

自動車用部品は、主力のブレーキホースは好調でしたが、子会社であるヒタチケーブル・フィリピンズ社 (Hitachi Cable Philippines, Inc.) が、2006年10月末で自動車用電線事業から撤退した影響などから、前期を下回りました。

この結果、売上高はほぼ前期並みの2,048億15百万円(内、外部顧客に対する売上高：1,965億61百万円)となりました。また、営業利益は前期比43%減の41億58百万円となりました。

